

様式 2

県立高等学校重点校制度に係る成果報告書

学校名 鳥取工業高等学校

重点項目	地域連携	提出日	令和5年4月25日
------	------	-----	-----------

1 学校目標	
『地域を支える人財（材）、技術者の育成』 技術を研ぎ、身体を鍛え、心を磨くことをとおして、優れた知性や創造性を身に付けたたくましい力と、感動したり他者を思いやるあたたかな心を兼ね備えた、健全で個性豊かな人材の育成をめざす。	
2 重点項目に係る目標・成果	
目標	成果
<p>(1) 学力の向上</p> <p>ア 授業改革と学力の向上</p> <p>イ 主体的な学習態度と実践力の向上</p> <p>(2) 豊かな人間性の育成</p> <p>ア 互いを尊重する態度と社会性の涵養</p> <p>イ 健全な心身と社会貢献精神の育成</p> <p>(3) キャリア教育の充実と進路実現</p> <p>ア 専門的な知識・技術の習得</p> <p>イ 勤労観・職業観の育成と進路指導の徹底</p> <p>ウ 地域や産業界との連携強化</p> <p>&lt;数値目標&gt;</p> <p>(1) 中学校等で行う出前授業に参加した小学科の実施回数が、延べ20回</p> <p>(2) 地域の高齢者宅等を訪問するテクノボランティアへの参加生徒数が、20名以上</p>	<p>出前授業は延べ7校、17回の実施であった。</p> <p>中学校：延べ6校、15回実施 (去年は延べ4校、6回実施)</p> <p>小学校：1校、延べ2回実施 (去年は1校、1回実施)</p> <p>新しく出前授業を希望する学校があり、コロナ禍の影響を受けた昨年よりも実施回数が増えた。</p> <p>テクノボランティアは夏季開催分のみ、感染対策をとりながら実施することができた。2つの小学科から13名が参加した。</p> <p>&lt;数値結果&gt;</p> <p>(1) 17回実施</p> <p>(2) 夏季のみ開催、参加者13名</p>
3 実施事業	
<p>【高等学校課事業】</p> <p>・学校連携チャレンジ・サポート事業</p> <p>鳥取湖陵高校、鳥取商業高校、智頭農林高校と連携し、令和4年7月23日（土）にわらべ館で「ふるさと専門高校フェスタ」を計画。当初予定していた小・中学生による「ものづくり体験イベント」については新型コロナウイルス感染症の拡大時期と重なったために見送り、4校のパネル展示のみの開催となった。</p> <p>【独自事業】</p> <p>(1) 豊かな心育成事業</p> <p>・テクノボランティア</p> <p>令和4年7月22日（金）に近隣の高齢者住宅等を訪問して、電気製品等の簡易な修理や清掃等を実施した。冬季については令和4年12月23日（金）に実施予定であったが、高齢者宅を訪問する性質上、新型コロナウイルス感染症の懸念から、地域代表との協議により開催を中止した。</p>	

## (2) 地域連携推進事業

### ・鳥工テック

地域の小・中学生や一般の方々への発表を予定していたが、感染症対策のため公開対象を本校生徒と第3学年保護者に限定し、令和4年10月8日(土)の鳥工祭2日目に実施した。

各科テーマ：工作機械に触れる、フワフワ雲ランプ製作、テーブルタップ製作、木工体験

### ・中学生体験入学

令和4年8月4日(木)・5日(金)の2日間にわたり、午前と午後の計4展開で実施。延べ210名(昨年は117名)が参加した。これまでは4小学科すべてを見学するコースと学科ごとの体験コースに分けて行なっていたが、今年はものづくりを主眼に据え、体験コースのみで実施した。

### ・傘踊りロボット実演

傘踊り関連のイベントが相次いで中止されていたため、これまで地域のイベントに招かれて好評をいただいていた自動演奏システム「ミューズ」のユニットに人型ロボットを組み入れ、集客・地域活性につなげることとした。

### ・出前授業「工業っていいかも」

各専門科の教員が中学校に出向き、延べ6校で関連分野の授業を行った。また、いくつかの中学校から、出前授業とは別のねらいで開催する学習会・講演会の要望もあり、中高連携の広がりを実感した。

### ・地域公開講座

「理科実験教室」として近隣小学校の5年生を対象にドローンプログラミング教室・レジンを使った小物づくり体験を実施。児童は情報や化学の楽しさ・奥深さを感じとっていた。この事業では本校生徒が講師・サポーターとして自主的に参加し、児童と触れ合う機会を得ることもできた。

(以下の事業はコロナ禍のため実施を見送った)

### ・地域支援による学力向上学習会

### ・地域企業連携(テクノヒルズ加盟)

## 4 総合所見(成果・評価)

本校は地域産業を支える人材の育成、地域に貢献する人材の育成を学校づくりの基として、地域に愛される学校づくりを目指している。出前授業は、中学生に「新しいことに挑戦し続けている学校」であることを伝え、「面白そうな学校」であると感じてもらえる有効な場であり、幸い、令和4年度はコロナウイルス感染拡大時期の合間を縫うように実施することができた。実施校数、実施回数とも令和3年度を上回っており、中学校では複数の小学科が出向いた授業は前年の2校から5校に増加、事業規模に回復傾向がみられた。その多くは前年(令和3年度)の実施を見送った学校であり、この2年間で東部の半数近くの学校から依頼を受けたこととなる。小学校からも依頼が続いており、実施の難しかった「保育実習」に代わり、児童と高校生の触れ合いの場としての役割も果たした。次年度はコロナウイルス感染症への対応が変わり、小・中学校においても学習計画を立てやすくなると思われることから、本校の教育資源を大いに活用していただけると期待している。

テクノボランティアについては実施対象が高齢者宅であり、感染した際の影響が懸念されることから、時間を短縮しつつ可能な範囲での実施に止めた。令和4年度は開催1回、13名の参加となったが、予定どおり年間2回の実施に戻れば目標の参加者数が達成できると思われる。訪問先からいただくお便りから、生徒はボランティア活動の大切さを学び取り、自己有用性と喜びを感じ取っていた。次年度も、積極的な参加を生徒に呼び掛けたい。

独自事業のほかにも、若葉台駐車場のクリスマスイルミネーション(イルミネーション展示)、倉吉未来中心で開催されたGIGAスクールフェアへの参加などを通して、地域とつながることができた。地域に愛される学校を目指し、今後も一つひとつの事業を大切に進めていきたい。

※枚数任意